

伸びしろ 2022年度卒塾生より

「伸びしろしかない！」—2020年1月、M君の入塾テストの結果をご覧になったお父さんの口から最初に飛び出た言葉だった。Creepy Nutsが「のびしろ」をリリースしたのが2021年だから、まだあの有名な歌詞「のびしろしかないわ」は世に出ていない時である。M君は、国語が平均に20点届かず、算数にいたっては100点満点中35点しか取れていなかった。入塾条件となる計算問題も、6問中4問しかできていない。小数のわり算も正確にやれていない状態だったのだ。そんな結果を前に、驚くでも困惑するでもあきれでもなく、現状をしっかりと見つめた上で未来に希望のある言葉を発せられたお父さん。私は“なんと大らかなお父さんだろう。これなら子どもも傷つくことなく前向きになれる！”と心を打たれた。子どもの成長を信じる気持ちが根底になれば、こんな状況で決して咄嗟に出る言葉ではない。

その後、無事に計算追試も合格し、入塾を果たしたM君。お父さんだけでなく、お母さんにもお兄ちゃんにも温かく見守られ、家族みんなからフォローを受けながらの中学校生活が始まった。最初の定期テストの学年順位は36位だった。通知表も9科合計30と、入塾テスト結果からすれば上出来だった。パート練習と宿題、そしてその直しをちゃんとやり続けた成果だ。その後も多少上下することはあっても、彼は中2の終わりまでほぼその成績を維持し続けた。

悪い成績ではない。志望校を聞けば「春日丘高校です。」と答える。問題ないのだが、私には少しひっかかっている事があった。受け身でしかないのだ。熱さがない。何のためにこの塾に通っているのかがわからない。満を持して、中3に上がる前の1対1の面談で「何を目標に勉強するの？」と尋ねてみた。彼は少し考えた後、「中3でオール4を目指します。」と答えた。

彼が変わったのはそこからだ。社会など覚えるべき教科はきっちり覚え、理科や数学など理解すべき教科はとことん理解出来るまで考え続け、さらに自主練習で体に定着させた。それまでの勉強は指示された事を最低限やるだけだったのだが、成績を上げるため、そして実力を伸ばすため、自分から勉強法を考え、工夫し、試行錯誤していった。当然学校でも結果として出てくる。中3の第1回テストでは一気に学年順位8位となり、1学期の通知表（内申）も36を取ってきた。約束通りのオール4である。志望校も松蔭高校に上がった。彼の本気は加速し、2学期には内申39まで上げた。そして最後まで走り続け、ついには合格をつかんだのだ。

伸びしろとは、成長する余地、潜在能力を指す言葉である。家族に信じられ、自分を信じ、彼は自分の力をとことん伸ばすことができた。この先もM君の伸びしろはまだ無限にある。